

(企画書)

岡山大学平成23年度特別配分経費(学内COE研究支援経費)事業

研究プロジェクト「岡山の表象美術における前近代と近代」による

国際シンポジウム「岡山から世界へ 国吉康雄」

■開催趣旨

岡山大学では、このたび学内COE研究プロジェクト「岡山の表象美術における前近代と近代」の一環として、国吉康雄についての国際シンポジウム「岡山から世界へ 国吉康雄」を開催します。

岡山の出石町に生まれた国吉康雄(1889-1953)は戦前戦後を通じてアメリカを代表する画家の一人として名声を得ました。近代日本の画家で世界的に成功したのはパリの藤田嗣治(1886-1968)とニューヨークの国吉康雄だけです。しかし国吉の名は、その後はアメリカでも日本でも、藤田のように知られていません。何故でしょうか。

国吉康雄は1906年に17歳で単身アメリカに渡り、苦勞して働く中で画家としての才能に目覚めるとともに、徹底的にアメリカの自由と民主主義の近代の理念を自らの理想としました。しかし彼の絵をみると、岡山の土着的あるいは古代的なモチーフ(牛、子供、仮面)に満ちていて、前近代あるいは反近代です。

ちょうど一年前の今日(3月11日)、私達は近代の物質文明が脆く一瞬にして失われることを経験しました。近代の理念と前近代の自然に引き裂かれた国吉康雄の矛盾について考えることは、日本における近代と物質文明の意味を考えることにほかなりません。

そしてまた日米開戦から70余年、昨今、アジアとの連帯が重要となってきている状況において、激動の時代にアメリカで生き抜いた日本人、中でもアメリカ人になろうとしたアジア出自の画家・国吉康雄について考えることは、1853年のペリー提督の来航以来、日本近代のお手本であったアメリカ、そしてアメリカ美術の形成に果たした日本人画家の貢献を考えることでもあります。

今回のシンポジウムでは、日米の研究者を招いて討議を行います。美術の分野にとどまらない幅広い視点から多くの問題が提起され、国吉康雄の画業の重要性とともに、更なる国吉康雄研究の方向を確認する機会となるでしょう。

■概要

国際シンポジウム「岡山から世界へ 国吉康雄」

日時：2012年3月11日(日)10:00-19:00(三部構成)

会場：岡山大学創立五十周年記念館

※入場無料(入場ご希望の方は、下記庶務グループまでメールあるいはファクスでご連絡いただければ幸いです。

主催：岡山大学

後援：岡山県立美術館、美術史学会、岡山県、岡山市、岡山県教育委員会、岡山県経済団体連絡協議会、山陽新聞社、(株)廣榮堂、岡山政経塾

助成：(財)福武教育文化振興財団 (財)直島福武美術館財団

協賛：(株)ベネッセホールディングス

プログラム：

第一部 10:00-12:10 「国吉康雄へのアプローチ」

司会 鐸木道剛（岡山大学文学部准教授）

10:00-10:30 開会挨拶 <各5分～10分程度>

荒木勝（岡山大学副学長）

鍵岡正謹（岡山県立美術館 館長）

福武總一郎（ベネッセホールディングス取締役会長、福武教育文化振興財団理事長）

10:30-11:10 基調講演 「クニヨシ追跡五十年」 <40分>

小澤善雄（直島福武美術館財団顧問）

11:10-12:10 対談 「画家クニヨシの戦争—映画化にむけて」 <60分>

五十嵐匠（映画監督）×丸内敏治（脚本家）

12:10-13:10 休憩 <60分>

第二部 13:10-17:50 「国吉康雄研究のこれまでとこれから」 パネリストによる報告 ※同時通訳付き

13:10-14:50 パネリストによる報告 ひとり25分×4人、

司会 龍野有子（岡山大学文学部）

トム・ウルフ（Tom Wolf バード大学） "A Group of Lost Kuniyoshi Drawings from 1948"

ゲイル・レヴィン（Gail Levin NY市立大学） "Yasuo Kuniyoshi's Place in American Art"

ジャクリーン・フランシス（Jacqueline Francis カリフォルニア美術大学） " 'Reality and Imagination': Figuring the Body in Kuniyoshi's Genre Portraits"

王士圃（ShiPu Wang カリフォルニア大学、マーセド） "Kuniyoshi at War"

14:46 <黙禱>

14:50-15:05 休憩 <15分>

15:05-17:50 パネリストによる報告 ひとり25分×1人、20分×4人

司会 赤木里香子（岡山大学教育学部）

レイモンド・タラス（Raymond Taras チューレーン大学） "Kuniyoshi in Fear"

星野睦子（美術史家） 「国吉康雄の<仮面>をめぐる—考察」

妹尾克己（岡山県立美術館） 「国吉のアイデンティティの二重性」

廣瀬就久（岡山県立美術館） 「福武コレクション—静物画と晩年の人物像を中心に」

鐸木道剛（岡山大学文学部） 「国吉の『牛』—表象を超えて」

17:50-18:00 休憩 <10分>

第三部 18:00-19:00 全体討議「岡山から世界へ 国吉康雄」

※同時通訳付き

講演者、パネリスト、コメンテーター、聴衆によるディスカッション

司会 鐸木道剛（岡山大学文学部）

コメンテーター 岡部昌幸（帝京大学）

<お問い合わせ>

岡山大学文学部（庶務グループ）

（電話番号）086-251-7369

（FAX番号）086-251-7350

（Email アドレス）mich_s@cc.okayama-u.ac.jp

※本件の講演およびシンポジウムの内容をまとめた報告書を2012年度に発行する予定です。以上